

バーゼル委による「開示要件（第3の柱） の統合及び強化－第2フェーズ」に関する 最終規則文書

2017年4月
金融庁／日本銀行

* 当資料は、バーゼル委が公表した最終規則文書の内容への理解促進の一助として、作成されたものです。当資料の無断転載・引用は固くお断り致します。

目次

1. 経緯／概要
 2. 第2フェーズの主な開示要件
 - (1) 主要指標、概観
 - (2) 各種評価調整に係る開示(PVA)
 - (3) 資本、TLAC関連の開示
 - (4) マーケット・リスクの開示
 3. 開示を規定する既存の各種規則文書の統合
 4. 開示(第3の柱)枠組みの前提
 5. 今後の予定
- ＜参考＞第1、2フェーズの雛形一覧

1. 経緯／概要

- バーゼル委員会は、銀行の情報開示を通じた市場規律の活用のための枠組み(第3の柱)について、段階的な見直しを実施。
- 第1フェーズでは、現行の開示項目[自己資本比率の分母(RWA)]を見直し、様式を統一化した(2015年1月公表)。

今般の第2フェーズでは、

- ① 既に最終化済みの「レバレッジ比率」、「流動性比率」、「銀行勘定の金利リスク」等に関する開示項目を今般の最終規則文書で統合。
- ② 開示の質を高めるため、規制上の主要数値(自己資本比率、レバレッジ比率、流動性比率等)の時系列推移を一覧できる開示雛形を追加。
- ③ 「TLAC」及び「マーケットリスク」規制の内容を踏まえた開示項目の改定及び追加。

(注)市中協議は2016年3月に実施

- 第3フェーズでは、「オペリスクの枠組み改定に伴う開示」、「担保資産の開示」、「内部モデル手法採用行による、内部モデル手法/標準的手法の2手法で計算したRWAの開示」、などを検討する予定。

2(1) 主要指標、概観の開示(様式KM1、KM2、OV1)

- 主要規制指標に係る定量的な時系列情報を、まとめて表形式で示す内容。利用者が各銀行の財務の健全性を巡る足許の状況や過去からの推移を概括的に把握することを可能にする趣旨。
- 様式KM1は、最上位連結ベースの自己資本比率、レバレッジ比率、流動性比率等を開示するもの。全銀行が対象。ECLモデル導入に伴う影響にも配慮した。
- 様式KM2は、破綻処理グループ毎にTLAC総額や関連の比率を開示するもの。G-SIBが対象。
⇒直近5四半期分の計数を開示する。
- 様式OV1は、第1フェーズで定めたRWAの信用リスク、マーケットリスク、オペリスクの内訳を修正したもの。全銀行が対象。
- 開示頻度: 様式KM、OVとも四半期。
- 実施日: KM1: 2018年初、KM2: 2019年初、OV1: 2018年末。

2(2) 各種評価調整(PVA)に係る開示(様式PV)

- 評価の健全性を担保するための調整(Prudent Valuation Adjustments)とは、バランスシート上の金融商品等の会計上の公正価値に、将来の不確実性を考慮した調整を加え、CET1資本から控除する、バーゼル規制上の枠組み。
例:大量の有価証券をまとめて売却すると想定した市場価格で全てを売却できず、財務諸表に示される時価とズレが生じる。この内、会計で捕捉していない部分を開示するもの。
- PVAに関して開示の義務付けがなかったが、今般そうした各種評価調整の詳細をリスク要素別に示す開示雛型(様式PV1)を新たに定めた。PVAを計上している銀行のみ開示対象となる。
- 開示頻度:年次。
- 実施日:2018年末。

2(3) 資本、TLAC関連の開示(様式CC,TLAC,KM)

- 資本関連の開示雛形(様式CC)は市中協議文書から変更なし。TLACは資本関連の開示と重複する部分を中心に大幅に削除。
- 様式TLAC1では、G-SIBがFSB最終合意文書(2015年11月)に沿った額の(グループ外から調達する)TLAC債を発行しているかを破綻処理グループ毎に、特例への該当有無も含めて開示する。
- 様式TLAC2では、グループ内TLAC額について主要子会社グループ・法人毎に他の債務との弁済順位の関係などを含めて開示。
- 様式TLAC3は、破綻処理対象法人毎のTLAC債発行残高を債権者順位に沿って開示する。
- 外部TLACについては、SPEアプローチを採用する場合はグループ持株会社／親会社の連結ベース、MPEアプローチを採用する場合はG-SIB内の複数の破綻処理グループ毎に開示する。

SPE(Single Point of Entry)とは、単一の当局が連結グループの頂点にある持株会社に対し破綻処理権限を行使する戦略。MPE(Multiple Points of Entry)とは、複数の当局がグループ内の法人(銀行等)毎にそれぞれ破綻処理権限を行使する戦略。

- 開示頻度: 様式CC, TLACは半期(様式KMは四半期)。
- 実施日: 資本関連は2018年末、TLAC関連は2019年初。

2(4) マーケット・リスクの開示(様式MR)

- 2016年1月に公表済みの最終規則文書「マーケット・リスクの最低所要自己資本」に沿う形で、第1フェーズで定めた雛形の見直しを行ったもの。
- 様式MR1は、標準的方式を利用するポートフォリオの資本賦課額をリスク種類毎に開示するもの。
- 様式MR2は、内部モデル採用行に対しグループ全体での資本賦課額の内訳やバックテスト超過回数の開示を求める内容。
 - デスク毎の主要リスク分野などを示す定性的な開示も行う(様式MRC)。
- 様式MR3は、内部モデル採用行が、マーケットリスクに関する変動要因を説明するもの。雛形自体を若干簡素化した。
- 開示頻度: 雛型毎に設定。
- 実施日: 2019年末。

3. 開示を規定する既存の各種規則文書の統合

- 以下の通り、各種規則に関する開示要件を統合した。
 - ① 資本構成の開示要件(2012年6月) ⇒様式CC
 - ② G-SIB選定指標の開示(2013年7月) ⇒様式GSIB
 - ③ カウンターシクリカル・バッファの開示(2011年6月改定後バーゼルⅢ規則) ⇒様式CCyB
 - ④ レバレッジ比率の枠組みと開示要件(2014年1月) ⇒様式LR
 - ⑤ 流動性カバレッジ比率(LCR)の開示基準(2014年1月)、安定調達比率(NSFR)の開示要件(2015年6月) ⇒様式LIQ
 - ⑥ 銀行勘定の金利リスクに係る開示要件 ⇒様式IRRBB
 - ⑦ 報酬に係る開示要件(2011年7月) ⇒様式REM

(注1) 括弧内は各種規則が最終化／公表された時期。

(注2) ②の対象は一定規模以上の国際統一基準行(G-SIBsのみではない)。

- 市中協議からの主な修正/確認内容は以下の通り。
 - 上記② 様式G-SIB:開示後、データに修正があった場合には再開示を行う。
 - 上記③ 様式CCyB:カウンターシクリカル・バッファの上限は2.5%に限らない。
 - 上記⑤ 様式LIQ:LCRは90日の日次平均値を3ヶ月毎に、NSFRは2四半期末値の計数を6ヶ月毎に開示する。

4. 開示(第3の柱)枠組みの前提

- 第2フェーズでも第1フェーズ最終規則同様、以下の点を規定。
 - 適用対象は、原則として国際的に活動する銀行における連結ベースの開示。但し、G-SIB関連、TLACなどの例外あり。
 - 開示頻度は、四半期、半期、年次に区分され、雛型毎に設定(詳細は、本資料P10-13<参考>参照)。開示のタイミングについては、原則として対象となる報告期間の財務諸表と同時点の公表を提案。
 - 開示の信頼性確保のため、銀行の開示方針が取締役会等で承認を受け、開示情報の作成にあたり、他の財務情報(MD&Aなど)作成と同水準の内部レビューおよび内部統制プロセスの対象とされることを要求。そうしたプロセスへの遵守を取締役会等が書面で宣誓する。
 - 開示雛型毎に、「Fixed様式:概ね雛型に則った開示を要求」もしくは「Flexible様式:開示形式につき銀行に相応の裁量を容認」に区分。いずれもアニュアル・レポート等との相互参照(sign post)が可能だが、前者には厳格な要件を設定。
 - 守秘情報の開示は免除(但し、補足的な説明を加える必要)。

5. 今後の予定

- 第2フェーズの最終規則文書に関するFAQ
 - 第1フェーズのFAQは、2016年8月に公表。今後、業界からの質問があればFAQを作成する過程に移行する。
- 今後の取組み(第3フェーズ)
 - 内部モデル手法採用行による、内部モデル手法/標準的手法の2手法で計算したRWAの対比表。
 - オペリスクの枠組み改定に伴う開示、担保資産の開示、についても順次雛形を作成。
 - この他、バーゼルⅢ規制の最終化を展望した開示内容の見直しなど。
 - 2017年後半に市中協議を行う予定。

<参考> 第1、2フェーズの雛形一覧 (1)

略称	開示内容	第1フェーズ	第2フェーズ	様式		開示頻度	実施日
				Fixed	Flexible		
リスク管理・バーゼル規制の主要な数値							
KM1	バーゼル規制の主要数値の時系列推移		レ	レ		四半期	2018年初
KM2	【G-SIB】TLACの時系列推移		レ	レ		四半期	2019年初
OVA	銀行のリスク管理の概要	レ			レ	年次	2016年末
OV1	RWAの概要	レ	レ	レ		四半期	第1フェーズ:2016年末
							第2フェーズ:2018年末
財務諸表と規制上のエクスポージャーとのリンク							
LI1	連結範囲に関する会計-規制間の相違	レ			レ	年次	2016年末
LI2	規制上のエクスポージャーと会計数値の差異の主な要因	レ			レ	年次	2016年末
LIA	会計-規制間の差異に関する説明	レ			レ	年次	2016年末
PV1	各種評価調整 (Prudent Valuation Adjustments)		レ	レ		年次	2018年末
資本およびTLACの構成							
CC1	規制資本の内訳		レ	レ		半期	2018年末
CC2	規制資本と会計上のBSとの関係		レ		レ	半期	2018年末
CCA	規制上の自己資本およびTLACに該当する金融商品		レ		レ	半期	2018年末
TLAC1	【G-SIB】TLACの内訳		レ	レ		半期	2019年初
TLAC2	【G-SIB】主要子会社グループ・法人毎の債権者ランキング		レ	レ		半期	2019年初
TLAC3	【G-SIB】破綻処理対象法人毎の債権者ランキング		レ	レ		半期	2019年初
マクロプルーデンス監督措置							
GSIB1	G-SIB指標の開示		レ		レ	年次	2018年末
CCyB1	カウンターシクリカル・バッファーに利用される信用エクスポージャーの地域別内訳		レ		レ	半期	2017年末

<参考> 第1、2フェーズの雛形一覧 (2)

略称	開示内容	第1フェーズ	第2フェーズ	様式		開示頻度	実施日
				Fixed	Flexible		
レバレッジ比率							
LR1	会計上の資産とレバレッジ比率エクスポージャーの比較		レ	レ		四半期	2018年初
LR2	レバレッジ比率に関する共通開示テンプレート		レ	レ		四半期	2018年初
流動性							
LIQA	流動性リスク管理の概要		レ		レ	年次	2017年末
LIQ1	流動性カバレッジ比率 (LCR)		レ	レ		四半期	2017年末
LIQ2	安定調達比率 (NSFR)		レ	レ		半期	2018年初
信用リスク							
CRA	信用リスクに関する定性的情報	レ			レ	年次	2016年末
CR1	資産の質	レ		レ		半期	
CR2	デフォルトしたローン・債券の残高推移	レ		レ		半期	
CRB	資産の質に関する追加的な開示	レ			レ	年次	
CRC	信用リスク削減手法に関する定性的開示	レ			レ	年次	
CR3	信用リスク削減手法の概要	レ		レ		半期	
CRD	【SA】外部格付の利用に関する定性的開示	レ			レ	年次	
CR4	【SA】信用リスク・エクスポージャーと信用リスク削減の効果	レ		レ		半期	
CR5	【SA】アセットクラス／リスク・ウエイト別のエクスポージャーの内訳	レ		レ		半期	
CRE	【IRB】IRBモデルに関する定性的開示	レ			レ	年次	
CR6	【IRB】ポートフォリオおよび倒産確率別エクスポージャー内訳	レ		レ		半期	
CR7	【IRB】信用リスク削減目的で利用されたクレジット・デリバティブの影響	レ		レ		半期	
CR8	【IRB】RWAの増減の要因分解	レ		レ		四半期	
CR9	【IRB】ポートフォリオ別の倒産確率のバックテスト	レ			レ	年次	
CR10	【IRB】特定貸付債権および株式	レ			レ	半期	

<参考> 第1、2フェーズの雛形一覧 (3)

略称	開示内容	第1フェーズ	第2フェーズ	様式		開示頻度	実施日
				Fixed	Flexible		
カウンターパーティー・信用リスク(CCR)							
CCRA	CCRに関する定性的開示	レ			レ	年次	2016年末
CCR1	アプローチ毎のCCRエクスポージャーの分析	レ		レ		半期	
CCR2	信用評価調整(CVA)に基づくキャピタルチャージ	レ		レ		半期	
CCR3	【SA】ポートフォリオ及びリスク・ウェイト毎のCCRエクスポージャー	レ		レ		半期	
CCR4	【IRB】ポートフォリオおよび倒産確率毎のCCRエクスポージャー	レ		レ		半期	
CCR5	CCRエクスポージャーに対する担保の内訳	レ			レ	半期	
CCR6	クレジット・デリバティブのエクスポージャー	レ			レ	半期	
CCR7	【IMM】CCRエクスポージャー増減の要因分解	レ		レ		四半期	
CCR8	中央清算機関向けエクスポージャー	レ		レ		半期	
証券化							
SECA	証券化エクスポージャーに関する定性的開示	レ			レ	年次	2016年末
SEC1	銀行勘定の証券化エクスポージャー	レ			レ	半期	
SEC2	トレーディング勘定の証券化エクスポージャー	レ			レ	半期	
SEC3	銀行勘定の証券化エクスポージャー(銀行がオリジネーターまたはスポンサーの場合)	レ		レ		半期	
SEC4	銀行勘定の証券化エクスポージャー(銀行が投資家の場合)	レ		レ		半期	

<参考> 第1、2フェーズの雛形一覧 (4)

略称	開示内容	第1フェーズ	第2フェーズ	様式		開示頻度	実施日
				Fixed	Flexible		
マーケット・リスク							
MRA	マーケット・リスクに関する概況	レ	レ		レ	年次	第1フェーズ:2016年末 第2フェーズ:2019年末
MR1	【SA】キャピタルチャージ	レ	レ	レ		半期	第1フェーズ:2016年末 第2フェーズ:2019年末
MRB	【IMA】モデル等に関する定性的開示	レ	レ		レ	年次	第1フェーズ:2016年末 第2フェーズ:2019年末
MRC	【IMA】トレーディング・デスクの構造		レ		レ	半期	2019年末
MR2	【IMA】RWAの増減の要因分解 【IMA】リスク種類別のマーケット・リスク	レ	レ	レ		半期	第1フェーズ:2016年末 第2フェーズ:2019年末
MR3	【IMA】キャピタル・チャージの基となる数値(VaR等) 【IMA】RWAの増減の要因分解	レ	レ	レ		四半期	第1フェーズ:2016年末 第2フェーズ:2019年末
MR4	【IMA】VaR予測値と実際の損益の比較	レ			レ	半期	2016年末
銀行勘定の金利リスク							
IRRBA	銀行勘定の金利リスクに関するリスク管理の概要		レ		レ	年次	2018年
IRRBB1	銀行勘定の金利リスクに関する定量情報		レ	レ		年次	
報酬							
REMA	報酬に関する方針		レ		レ	年次	2017年末
REM1	会計年度中に支払われた報酬		レ		レ	年次	
REM2	特別報酬		レ		レ	年次	
REM3	繰延報酬		レ		レ	年次	